

日本銀行決済機構局長の神山です。第4回の開催となるクロスボーダー送金分科会にご参加頂き、誠にありがとうございます。

クロスボーダー送金の改善に向けたグローバルな取り組みでは、分散型台帳技術を用いたクロスボーダーでのプラットフォーム構築や、即時送金システム同士の国を跨ぐ接続など、改善に向けた具体的な枠組みの検討も増えてきています。デジタル化の加速や技術革新の進展、また、G20のコミットメントを背景に、クロスボーダー送金の改善に向けたモメンタムは、グローバルに着実に高まっていると感じられます。

本日の分科会では、クロスボーダー送金の改善に向けたロードマップで進んでいる様々な国際的な取り組みを紹介します。昨年10月にG20で承認された、クロスボーダー送金のコスト、スピード、アクセス、透明性といった4つの課題に対する定量目標について、改善状況のモニタリングに向けたデータ収集等の検討が続いています。また、多くの取り組み分野では基礎的な調査が進んでおり、今後は改善の実現に必要な実務的な取り組みの進め方に焦点が移っていきます。いずれの点についても、日本の決済サービス事業者の実務も踏まえ、ご意見をうかがいたいと考えております。このほか、これまでの分科会でもクロスボーダー送金の改善を考えるうえで重要な論点とされてきたAML/CFT対策についても取り上げます。日本におけるAML/CFT対策のあり方を業界横断で考える機会となれば幸いです。

国際的な取り組みが徐々に具体化されるなか、官民の対話や協調が益々重要になってきていると考えておりますので、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。